

1. 題材の目標と評価基準

【学年】 小学校全学年 【題材名】 ロードレース大会に向け自己の目標を達成しよう [(1)アイ]		
【題材の目標】 長距離走の取り組みを通して、自己目標シートを活用し目標達成に向けてがんばる意欲を高めると共に、お互い協力し合い励まし合い、よりよい集団作りをしようとする態度を育てる。		
取り組みへの参加の 関心・意欲・態度	集団活動へのかかわる 思考・判断・実践	健全な生活習慣形成の能力の 知識・理解
○今年度の目標を決め、カードに書いている。 ○練習ごとに自己反省をし、目標の確認・修正をしている。	○全員が目標を達成することができるように、学年の発達段階に応じてお互いが励まし合っている。	○目標記録を達成するための練習方法や食事、規則正しい生活習慣形成の大切さを理解している。

2. 題材の指導計画

過程	○主な活動 ・予想される児童の発言等	◇教師の主な働きかけ	■評価規準 □評価方法
事前の活動	課題の意識化 ○ロードレース大会に向け、自己目標シートに自分の決意を書く。 ○練習ごとの記録をカードに記録し、グラフ化することにより、成果を目で確かめる。 ○1回ごとに全校の前で反省を発表することにより、自分の弱点や次回へ向けての決意などを明らかにする。	◇昨年度の記録（1年生を除く）から、子どもたちに適切な指導を行い、目標を持たせる。 ◇学習支援ボランティアを導入し、専門的な立場から子どもたちに、技術的指導とメンタルな面のアドバイスを行う。 ◇全校で行う利点を生かし、高学年が低学年をリードするなど、お互い励まし合う言葉や行動をするよう促していく。	■集団の一員としての自覚をもち、目標に向けてがんばろうとしている。 【関心・意欲・態度】 ■集団における自己の役割を考え、望ましい行動をとろうとしている。 【思考・判断・実践】 □自己目標シート □記録カード □反省の発表
本時の活動	導入 1. あいさつ 2. 準備体操 目標達成の意識化と励まし 3. 決意の発表	◇今までの練習の成果を認めると共に、子どもたちを励まし、自信を持たせる。	□観察
	展開 4. レースへの参加 ○今まで練習してきたことを自信とし、力を出し切るよう走る。	◇最終のアップをし、緊張をほぐし、自分の力を出し切るよう声がけ。 ◇沿道での声かけ。	□観察
	週末 5. 子どもたちへのねぎらい 6. 感想発表	◇最後までがんばった子どもたちに励ましの言葉をかける。 ◇結果を出したこと、また、最後までがんばったことをねぎらう。	□観察 □感想の発表
事後の活動	振り返り ○感想カードに記載すると共に、全校で感想発表を行う。	◇一人ひとりのタイム短縮やがんばりについて、これまでの努力を認め、励ます。 ◇練習を通して学んだこと、また改善していくところなどを発表させ、お互いのがんばりを認め合うよう指導する。	■集団生活での秩序や自己の役割を理解したり、個性を活かして充実を図ったりすることができる。 【知識・理解】 □振り返りカード □感想の発表

指導と評価の実際

児童のマラソントイム結果

昨年度のタイムから始まり、練習のたびに、記録を取り、子どもたちに知らせ、練習成果が出ていることを知らせた。子どもたちは、練習するにつれてタイムが縮まることを励みに、練習を続けることができた。

本番のレースでは、どの子も自己ベストの記録を出すことができた。

教師の見取り

練習の最後には、子どもたちに必ず一言感想を発表させた。子どもたちの発表内容やその日の結果から、子どもたちのがんばりの程度を見取り、次への指導や本番の走りの留意点などを指導する。

教師の手だて（本時の活動）

ロードレース大会当日においては、今までがんばってきたことが必ず成果につながるよう自信を持たせ、あまり他のランナーを意識せず、自分の力を信じて、自分のペースで走るよう指導した。

教師の手だて（事後の活動）

子どもたちのがんばりを認め、お互い励まし合うことの大切さ、最後までがんばることの大切さを語ると共に、子どもたちの感想発表に耳を傾け、一人ひとりのがんばりを認め、次の年につながるよう助言していく。

3年生児童の感想と変容

ぼくは、マラソンがあまり好きではありませんでした。でも、周りの友達や先生が励ましてくれたので、どんどんタイムが上がってきました。本番では、入しようできなかったけど、自己ベストを出すことができとても嬉しかったです。 3年 S

マラソンの苦手なS君であったが、励ましを受けて結果が出せたことを喜び、次へのがんばりを見いだすことができた。

S君はその後、なわとびでも、積極的に上級技に挑戦するようになった。

マラソントイム結果 (改訂版)							No. 3
		2010	2011	2011	4/26	4/27	5/2
		大会記録	自己ベスト	自己目標	火	水	月
					試走	練習	練習
1	M		2 km. 1 5分00秒	1 3分台	1 6分10秒	1 5分23秒	1. 7 km. 1 2分54秒
1	Y		2 km. 1 3分28秒	1 2分台	1 3分28秒	1 4分50秒	1. 7 km. 1 2分03秒
1	M		2 km. 1 4分27秒	1 3分台	1 4分27秒	1 4分55秒	1. 7 km. 1 0分37秒
2	J	1 2分54秒 (10位)	2 km. 1 3分08秒	1 2分台	1 3分32秒	1 3分20秒	1. 7 km. 1 0分06秒
3	S	1 0分27秒 (4位)	2 km. 1 0分24秒		1 0分24秒	1 1分00秒	1. 7 km. 9 分12秒 1 3分46秒
3	S	1 2分53秒 (27位)	2 km. 1 1分18秒		1 1分18秒	1 1分56秒	1. 7 km. 7 分57秒
3	Y	1 1分36秒 (15位)	2 km. 1 0分17秒		1 0分17秒	1 0分44秒	1. 7 km. 8 分45秒 1 3分15秒
3	K	1 2分22秒 (19位)	2 km. 1 2分39秒		1 2分39秒		1. 7 km. 8 分36秒 1 6分58秒
4	M	1 3分19秒 (14位)	2 km. 1 2分41秒		1 2分41秒	1 4分10秒	
5	Y	1 3分01秒 (16位)	3 km. 2 0分32秒	1 9分台	2 0分32秒	2 1分53秒	2. 5 km. 1 7分15秒
6	T	1 8分05秒 (10位)	3 km. 1 5分27秒	1 4分台	1 5分27秒	1 5分53秒	2. 5 km. 1 5分37秒

たいかい
ロードレース大会を終えて

名前 ()

* ロードレース大会結果

5月8日	タイム	分	秒
------	-----	---	---

* ふりかえってみよう

目標はたっせいできましたか？

練習や大会の日のことを思い出して、がんばったことや今の気持ちを書いてみましょう。

資料

「特別活動」評価の観点と評価方法について

せたな町立若松小学校

1 目標

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸張を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。

2 特別活動の重点

- (1) 異学年集団の活動などを通して、よりよい人間関係を築く力を育てる。
- (2) 話し合い活動などを通して、集団の一員としてよりよい学校生活づくりに参画する態度を育てる。
- (3) 体験活動を通して、道徳的実践力の充実を図る。
- (4) 気付いたことや考えたことを発表し合ったりできる力を育てる。

3 評価の観点と評価方法

観点と評価の方法	参加の意欲 (関心・意欲・態度)	集団活動へのかかわり方 (思考・判断・実践)	健全な生活習慣形成の能力 (知識・理解)	評価方法
学級活動	・話し合いや係の仕事などを進んで行き、諸課題の解決に取り組もうとしている。	・学級生活の向上やよりよい生活づくりについて、考えた実践したりしている。	・諸課題に対して話し合い、自己の課題解決方法について理解している。	・観察 ・ふり返しカード など
児童会活動	・委員会の仕事を進んで行ったり、集会などに進んで参加したりしている。	・学校生活の向上や他のためを考えて、自己の役割を果たしている。	・諸課題の解決のため、話し合ったり、意見をまとめたりする仕方を理解している。	・観察 ・委員会ノート ・ふり返しカード
クラブ活動	・自己の興味・関心を意欲的に追求するとともに、他と協力しながら取り組もうとしている。	・他と協力して課題に向けて創意工夫して取り組んでいる。	・異年齢集団での共通の興味や関心を探り、自己を生かすよさを理解し活用している。	・観察 ・ふり返しカード ・アンケート など
学校行事	・集団の一員としての自覚をもち、望ましい行動をしようとしている。	・集団における自己の役割を考え、望ましい行動をとろうとしている。	・集団生活での秩序や自己の役割を理解したり、個性を活かして充実を図ったりすることができる。	・観察 ・ふり返しカード ・児童作文 など

4 関連について

総合的な学習の時間との関連	道徳との関連	教科との関連
○具体的な活動を通して、美しいものや自然に感動する心、社会貢献の精神、他人を思いやる心など豊かな人間性や社会性などを身に付けるようにする。 ○自ら課題を見付け、解決していけるようにする。	○道徳的な心情や判断力が、特別活動の具体的な活動場面で活かされ、道徳的実践がいっそう充実され、豊かになるようにする。	○話し合い活動で、自分の考えを簡潔で適切に伝えたり、効果的に発表したりするための能力や、友達の意見を正しく理解する能力や態度を養う。 ○委員会活動などでの調査・統計・結果の表示などの基礎となる能力を養う。